

令和6年度登録手話通訳者認定試験 手話通訳技能試験問題
手話の読取り（口頭）

「子ども」

私の子どもは、なんと男ばかりの三兄弟です。長男と次男はろう、三男はコーダですが、コミュニケーションはすべて手話です。先日、驚きの出来事がありました。私は、いつもトイレが長いのですが、当然ながらノックの音が聞こえませんので、コーダの三男は知恵を絞ったようです。用紙に『トントン 早く出て』と書いて、ドアの下から差し込んできたのでした。そんな手があったのかと驚きつつ急いで用を足して、どうしてそんなことをしたのか聞いたのですが、逆にトイレが長いと怒られてしまいました。そして、よくそんな方法を思いついたと感心した私とは裏腹に、三男は当然のことだと言うではありませんか。息子の方が思考はろう者で、私の思考は聴者止まりなのかと焦ったほどでした。

令和6年度登録手話通訳者認定試験 手話通訳技能試験問題
手話の読取り（書取り）

「音」

聴者とろう者では、音に対する考え方が異なります。私の家族は、デフファミリーですので、ろう者の両親のもとで育ちました。小さいときからコーヒーが好きで、いつも特に何も考えずにコーヒーをかき混ぜていました。すると、補聴器もしていないので聞こえないはずにもかかわらず私の所作を見ていた母から、音がしないよう静かに混ぜるのがマナーだと注意されてしまいました。強にかき混ぜると不快な音が出てしまうことが分かったので、その後は音を立てないよう静かに混ぜるようになりました。そして今、私は一人暮らしをしています。右耳に補聴器をしている友人が、私の家に遊びに来たときのことです。楽しくおしゃべりをしていたのですが、私が何かを取りに立ったときに足音がバタバタと聞こえたようで、気を付けて歩かないのかと指摘されてしまいました。それまで考えたことがなかったのですが、足音が響かないように歩いた方が良いと言うので驚きました。私の家は木造アパートなので、両隣の住民に迷惑をかけることがないように、それからは足音をたてないように歩くようにしました。